

育脳寺子屋NEWS

2020. 2. 1

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

頭のいい子は「〇〇」で育つ！

～さて、〇〇とは何でしょうか？～

以前、育脳寺子屋NEWSで、結果が出る子と出ない子（成績の良い子とそうでない子）の差は生まれつきではなく、勉強の「量」と「質」だということをまとめました。

今回もそれに通ずる部分がありますが、

頭のいい子は「〇〇」で育つ！

さて、〇〇の部分には何が入るのでしょうか？



頭のいい子は「習慣」で育つ
(河端真一 ダイアモンド社)

46年間教育の業界で活躍され、3万人を指導してきた河端氏が出した答え、それは「習慣」です。河端氏は著書の中にこう書かれています。

『一つ確実に言えることは、どんな子でも、「習慣」や「環境」によって、勉強が出来る子や、頭のいい子に変わる』

片手間でやらせず、一点集中させる

育脳寺子屋本部のある中学生が、「むっちゃ勉強してるけど、結果がなかなか出ないです」と話していました。親御さんに聞いても、たしかに長時間机に向かってはいるようです。

しかし、じっくり話を聞くとその原因が分かってきました。彼の勉強は「マルチタスク」だったのです。

マルチタスクとはもともとIT用語で「二つ以上の作業を同時に進行する」という意味です。勉強で言えば、「食事を取りながら単語帳を広げる」「ソファでくつろぎながら参考書をぱらぱらめくる」などが挙げられます。

これらは一見、すき間時間を使って効率的に勉強しているように思えますが、一点集中せず、片手間であることからあまり身にはつかないのです。

彼の場合は「勉強しながら、LINEの返信をしている」という、マルチタスクにもなっていないような状態でした。彼曰く「基本的にはちゃんと勉強していて、携帯が鳴ったらそれに返信して、それからまたすぐに勉強に集中している」とのことでしたが、彼は明らかに「勉強の質」が悪いのです。

彼には「マルチタスク」に関する本の抜粋を読んでもらい、「先生だけでなく、専門家がその勉強法はダメって言っているのだから、すぐに辞めないと長時間の勉強が無駄になるよ」という話をし、勉強の際は携帯が気にならないよう、離れた所に置くように約束しました。

一方で、河端氏は保護者に気をつけて欲しいこととして、「子どもが集中している時には、なるべくそれを邪魔しないこと」を挙げられています。

例えば子どもが勉強に集中している時に「お風呂に入ってよ〜」「ご飯できたから、冷めないように早く食べなさい」と水を差していることはありませんか？このように、悪気はなしに家族が邪魔をしている場合もあるのです。声をかける前に、子どもの様子を暖かく見守る優しさが必要だと書かれています。

「効率」ばかりを求めてはいけない

今の時代は何かと「効率」を求められます。ボタンを押すだけで機械が望むことをしてくれまし、スマホ一つで離れた場所の照明や冷暖房をON・OFFできる時代なので、仕方ありません。

しかし、勉強はそうはいきません。

『^{いへんさんぜつ}韋編三絶』という言葉をご存じですか。

孔子が竹で出来た書物を繰り返し読み、閉じていたひもが何度も切れてしまったという中国の故事に由来しています。今の子どもたちにも、孔子のように一冊の参考書をボロボロになるほどに読み込む経験をさせてあげるべきなのです。

今の子どもたちは豊かな時代に生まれたため、何冊も参考書を買ってもらえますし、その参考書の中から「いいとこ取り」すれば要領よく学習できている気になりますが、これこそマルチタスクと同じです。逆に言えば「一冊の参考書すら読み込めない」のであれば、勉強したつもりになっているだけで、どの参考書の内容もよくて中途半端にしか、場合によっては全く身につけていないと言えるのです。

「一つのこと（もの）に絞りきれず、あれこれと手を出してしまう」

もし我が子がそうだと感じられたら、それは保護者の影響が大きいと河端氏は書かれています。

世に溢れる情報に惑わされ、あっちへ行ったりこっちへ行ったり、あれが良いと聞くと、まだ使える物があっても新しい物を買って求める・・・。そんな親の姿を子どもは見えていないでしょうか？親が悪い見本にならぬよう、周りの情報に振り回されず、信念をもった行動をできるように心がけたいです。

育脳寺子屋では、小4以上は算数の文章題のテキストに取り組むのですが、ボリューム的には半年くらいで終わらせる量に設定しています。そしてそれを解き終わったら別のテキストに移るのではなく、同じテキストにもう一度取り組みます。進むのが早い子は二度目も終わることがあるので、その場合は三度目に取り組むのです。

「三度も同じテキストに取り組んで意味あるの？」

と思われるかもしれませんが、三度目でも間違える問題は出てきます。

二度目、三度目でも間違っている問題は自分が間違えやすい傾向の問題か、理解が不十分な問題なのです。だから、しっかりと復習する必要があるのです。

出題される範囲が決められている学校の定期テストであれば、少しでも高い点を取るための効率の良い勉強はできると思います。しかしそれは、「限られた範囲の知識を効率良く詰め込んだ」だけなので、本当の自分の力にはなっていないのです。

出題範囲が限られないような、本当の実力を試される入試、そしてその後の長い長い人生で戦うためには、効率ではない、地道な「韋編三絶」の勉強が必要になるのです。私たちはそれを意識して、日々指導にあたっています。